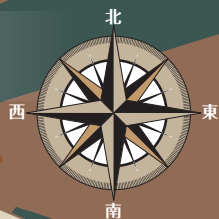


木下地区



ふれあいバス停 大成交通バス停 スワン号バス停 レインボーバス停

6

きおろしかいそう
木下貝層

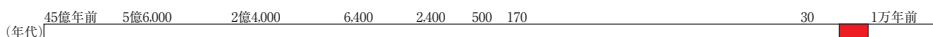
【指定年月日】 平成14年3月19日 【所在地】 木下字平台799-1 ほか

千葉県北部に広がる下総台地は、約45万年前から約8万年前に堆積した下総層群が基盤となっており、その中に約12万年前に古東京湾と呼ばれる広大な内湾に堆積した砂層が木下層で、当時生息していた貝類を中心とする化石が多量に観察できます。

木下貝層として指定されている木下万葉公園内にある露頭では、厚さ4.3m、長さ45mにわたって特に貝類の化石が密集しており、木下層の模式的な露頭です。

この地層からは100種類以上の貝類の化石が確認されており、基本的に暖流系、浅海性の貝類が多くみられます。

なお、木下貝層は露頭の表面が堅く固まっていることが特徴の一つで、古墳の石室石材や石灯籠などに利用されています。



11

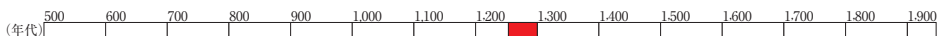
どうどうじゅういちめんかんのんりゅうぞう

銅造十一面観音立像 1 躯

【指定年月日】 平成6年2月22日 【所在地】 木下777(上町観音堂)

鋳銅製の十一面観音像で、現在、頭上面は残っておらず、木製の水瓶は後から補われました。像高は50.5cm、内部は頭頂まで空洞で、銅の厚さは3～4mmです。表面のところどころに鍍金が残っていますが、現状は全体に漆塗りで彩色したと思われます。

背面の裳に「金銅十一面観音 大空金剛○○(梵字) 永仁五年三月十六日」と銘文が刻まれており、鎌倉時代の永仁5年(1297)に造像されたことがわかります。この時期の鋳銅像としては比較的大きく、鎌倉時代後期の金銅仏として重要な作例です。毎年8月9日に護摩焚きが行われ、開帳されます。



12

もくどうじぞうぼさつりゅうぞう

木造地藏菩薩立像 1 躯

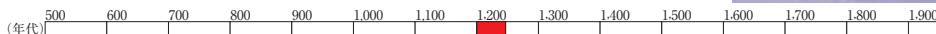
【指定年月日】 平成7年3月14日

【所在地】 別所1005(地藏寺)

ヒノキ材で、頭と体の大部分は一本から彫り出し、内部をえぐり取ったあとに再び接合して仕上げるいちぼくわりはぎづくり一本割刳造という製法が用いられた像高97.5cmの仏像です。ひたい額が張り、ややつり上がった目と引き締まった顔、動きのある衣文などに鎌倉時代の特徴がみられます。

また、表面には彩色と金箔を小片にして細工する切金が施されています。鎌倉時代前期の作と考えられます。

60年に一度開帳され、次の開帳は2051年の予定です。



20

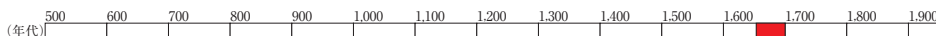
鳥見神社の獅子舞

【指定年月日】 昭和30年12月15日

【伝承地】 平岡1476(鳥見神社)

平岡地区では、苗代の種まきの終了を祝う「オコト」という行事の日に、悪魔払いと豊作を祈願して獅子舞を奉納してきました。現在は鳥見神社の春の例大祭が行われる5月3日に奉納されます。

ジジ(親獅子)、セナ(若獅子)、カカ(雌獅子)によるいわゆる三匹獅子舞で、演目は「初しよの切きり」「二にの切きり」「弓ゆみくぐりの舞」「ねむりの舞」「三角さんかくの舞」「みみずふんめい拾いいの舞」「けんかの舞」「仲直り三角の舞」「くじの舞」で構成されます。文明年間(1469～1487)頃より大森・鳥見神社の祭礼で舞われていたものが、延宝6年(1678)に平岡・鳥見神社に伝わったといわれています。



28

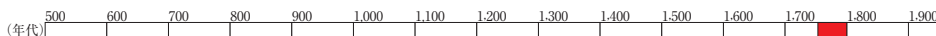
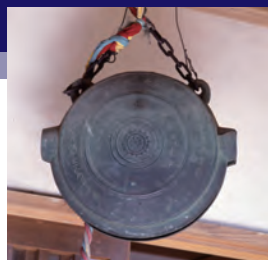
ちゅうどうわにくち

鑄銅鰐 1 口

【指定年月日】 昭和54年9月10日

【所在地】 竹袋141(竹袋稻荷神社)

竹袋稻荷神社境内観音堂にあるこの鰐口は、大きさが縦45cm、横50cm、厚さ16cmあり、市内で最も大きいものです。この鰐口には「奉納如意輪観世音菩薩御宝前 宝曆五乙亥年十二月十九日 下総国印旛郡竹袋村十九夜講中廿一人為二世安楽」の銘文が刻まれています。*宝暦5年は1755年



40

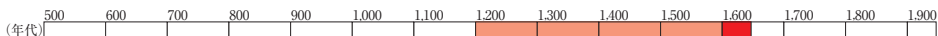
べっしょ しし まい
別所の獅子舞

【指定年月日】 昭和41年4月19日 【伝承地】 別所1005(地藏寺)

別所の獅子舞は、約800年前、獅子頭をかぶり、囃子をつけて村内を巡り歩いて悪疫退散を祈願していたものが、次第に猿楽や能楽などの要素が取り入れられ、江戸時代初期あたりから現在の形態になったといわれています。

この舞は笛師の囃子にのり、三匹の獅子（雄獅子・中獅子・女獅子）が舞うもので、「道笛」^{みちぶえ}「讃仰の舞」^{さんぎょう}「愛楽の舞」^{あいらく}「鎮護の舞」^{ちんご}「降伏の舞」^{こうふく}で構成されています。

江戸時代は春・夏・秋の年三回行われていましたが、現在は8月23日に宝泉院で、翌24日に地藏寺で演じられています。



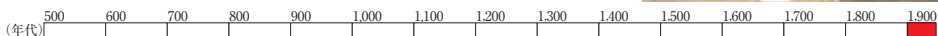
50

い わ い け じゅうたく しゅお く きゅうむさしやてんぽ
岩井家住宅主屋(旧武蔵屋店舗) 1棟

【登録年月日】 平成19年12月5日 【所在地】 木下1645(個人宅)

瓦葺の木造2階建の建物です。元々は利根川の囲堤上にあった旅籠屋^{はたごや}で、堤防工事に伴い大正3年(1914)ごろに移築・改築しました。その後は米・肥料商を営み、現在は住宅として使用しています。

桁行5間半、梁間3間切妻造棧瓦葺2階建の主屋に、桁行2間半、梁間5間半の切妻造棧瓦葺平屋建が付いています。



18

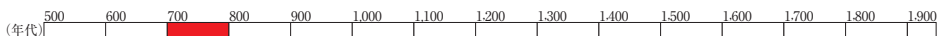
ま ご め い せ き しゅつど が と う が は つ く
馬込遺跡出土瓦塔 2基 附 瓦鉢1口

【指定年月日】 平成20年3月18日 【所在地】 木下1489-1(木下交流の杜歴史資料センター)

瓦塔とは、木造建築の塔を模して作られた焼物の塔のことです。壁と屋根を一層ごとに作り、組み上げて完成させます。

発掘調査で、奈良・平安時代の竪穴住居や掘立柱建物などの遺構や、破片の状態の瓦塔が集中して出土しました。集落内に安置されていたと推定されます。

一遺跡から7層2基に復元できる瓦塔が出土した例はなく、国内唯一の例です。



31

よしお かけ か し かんけいもんじょ

吉岡家河岸関係文書 176点

【指定年月日】 平成3年6月4日

【所在地】 木下1489-1(木下交流の杜歴史資料センター)

この文書群は江戸時代、木下河岸で代々問屋を営んだ吉岡家に伝わるものです。内容は、江戸時代慶長年間(1596～1615)から明治時代初頭にかけての木下周辺での出来事を記した用留や証文、書簡などで、当時の木下河岸の様子を知るうえで重要と考えられます。

木下河岸は、利根川右岸の手賀沼落堀の合流点にあり、また木下街道の連結点として、水陸交通の要所として繁栄しました。銚子などで水揚げされる鮮魚荷物の中継輸送や香取・鹿島・息栖の三社詣、水郷・銚子遊覧などの旅客輸送でにぎわい、最盛期には年間4,000艘の出船があったといえます。同河岸は、明治時代に入ってから蒸気船の発着場として栄えましたが、明治34年(1901)の成田鉄道の開通により次第に衰退していきました。



(年代) 500 600 700 800 900 1,000 1,100 1,200 1,300 1,400 1,500 1,600 1,700 1,800 1,900

37

こがね まきししがりしりょう むらこばた

小金牧鹿狩資料「村小旗」 1枚

【指定年月日】 平成3年6月4日

【所在地】 木下1489-1(木下交流の杜歴史資料センター)

この村小旗は江戸時代に將軍の鹿狩りの時に使用されたもので、当時別所村の名主をしていた浅野家に代々保存されていたものです。この村小旗の染め抜き文字から、鹿狩りの際、別所村に10人の人足が割り当てられていたことがわかります。この人足たちの役割は動物を追い立てたり、逃げるのを防いだりするなど狩りの手助けをすることです。

下総小金牧での鹿狩りは、8代將軍吉宗が享保10年(1725)、11年(1726)の2回、11代將軍家齊が寛政7年(1795)、12代將軍家慶が嘉永2年(1849)の計4回行いました。この村小旗は、寛政の鹿狩り以降に使用されたものと考えられています。



(年代) 500 600 700 800 900 1,000 1,100 1,200 1,300 1,400 1,500 1,600 1,700 1,800 1,900